

第15回 たま エンド・オブ・ライフ・ケア交流会 報告

「エンドオブライフ期に関わる社会保障制度 —その人と家族の望む支援のあり方を考える—」

2019年6月15日(土)午後、国立看護大学校（東京都清瀬市）で「たまエンドオブライフ・ケア交流会」が開催されました。病院・療養所・訪問看護事業所・教育機関の看護職・福祉職・学生等、計38名が参加しました。

今回は、エンドオブライフ期にまつわる医療保険・介護保険制度についての講演の後、参加者同士で日々の実践に関わる観点から、意見交換を行いました。



講演「エンドオブライフ期に関わる社会保障制度」

国立看護大学校 保健行政学 教授 稼農 和久 氏

医療保険制度、介護保険制度の成り立ちと変遷、保険者などについて基本事項を振り返りました。また、各制度にまつわる、その時代の社会情勢や行政の様々な考え方を、分かりやすく解説して頂きました。

高齢者数がピークを迎える2040年の社会保障の展望についても、国民的な議論が必要であることも紹介されました。

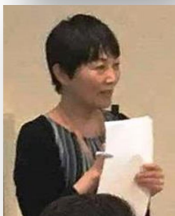
司会

世話人
野上智絵



交流会挨拶

世話人
大石恵子



ファシリテータ

世話人
安西裕子



参加者の意見・感想

- ・社会保障を学びなおす機会が普段あまり無いため、今回の講義は分かりやすく、貴重な機会となりました。
- ・普段はあまり目にしない全国のデータに触れ、社会保障制度の変革や日本の現状をイメージできました。
- ・ディスカッションでは、悩みや考えを参加者の皆様から伺い、自施設でも同じ悩みがあることを確認でき、また今後自施設でも取り入れたいと思うことが多々ありました

次回第16回交流会は、10月12日(土)・13日(日)の国立看護大学校祭での開催を予定しています。
詳細は <http://tama-elc.umin.ne.jp/> をご覧ください。

次回もお待ちしております。

たま エンドオブライフ・ケア交流会世話人
相澤佳代子・安西裕子・飯野京子・大石恵子・
相良君映・長岡波子・野上智絵・綿貫成明